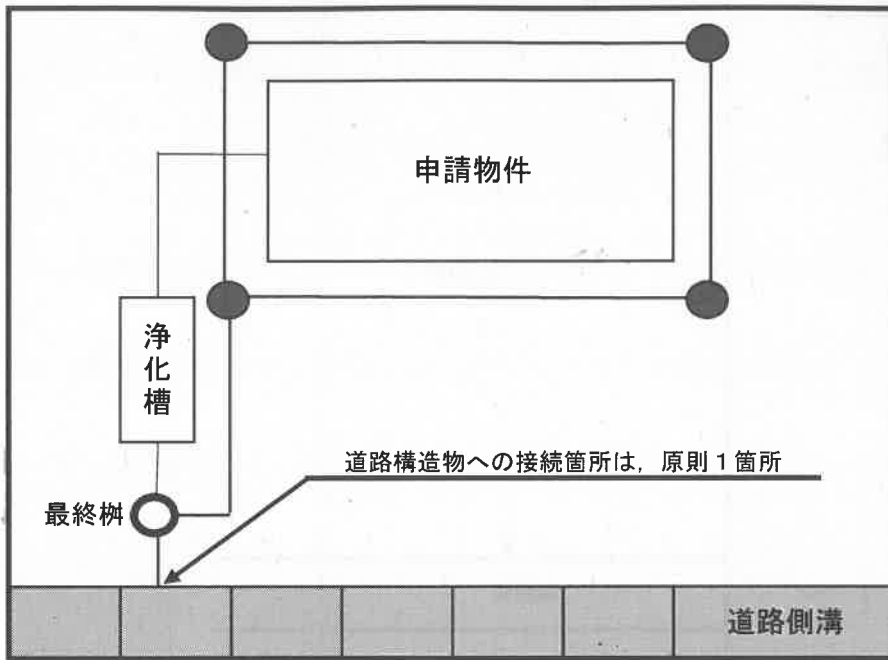


生活排水等の流入接続について（参考）

（別紙 1）

<接続例>（一般専用住宅の合併処理浄化槽及び雨水の放流）



●：標準浸透樹
（ひたちなか市指定）
※建物の大きさ等により個数変動

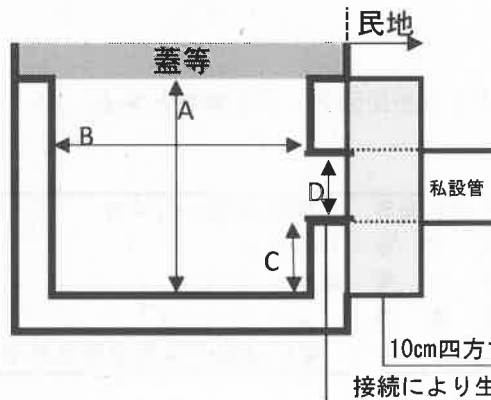
<雨水対策量>

【1,000㎡以上（土地）】
300㎡/haの雨水対策（貯留）量が必要

【1,000㎡未満（戸建住宅）】
一戸当たり1.8㎡の雨水対策（貯留）量が必要
⇒屋根面積100㎡当たりの対策量

ひたちなか市雨水貯留・浸透施設技術指針による

<断面図①>例：私設管と道路側溝の接続（官民境界際に道路側溝等が存在する場合）



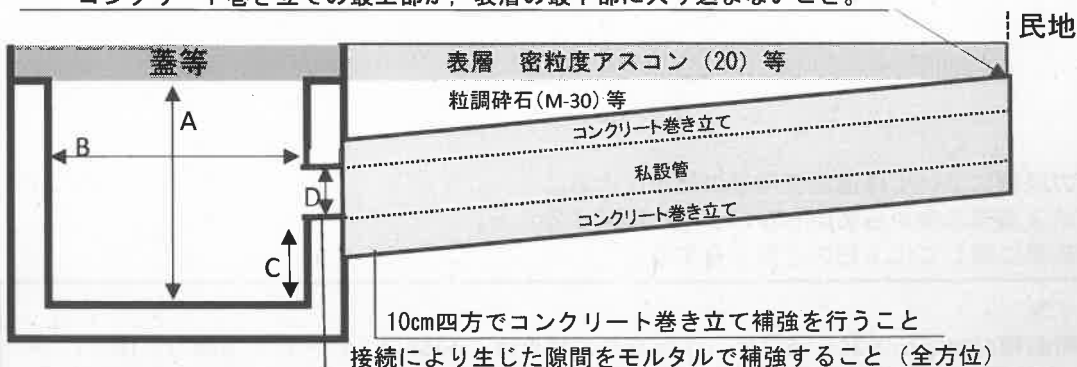
断面図①～③に共通

A及びB：有効断面等…有効断面積 = $A \times B$
C：泥溜等… $(A - D) \div 2$
※管口補修が可能な深さまで
※長尺U字溝の場合は、最低10cm
D：管口径…有効断面（A）の1/3
※最大φ100まで

<断面図②>例：私設管と道路側溝の接続（官民境界際に道路側溝等が存在しない場合）

※横断埋設の場合に限る

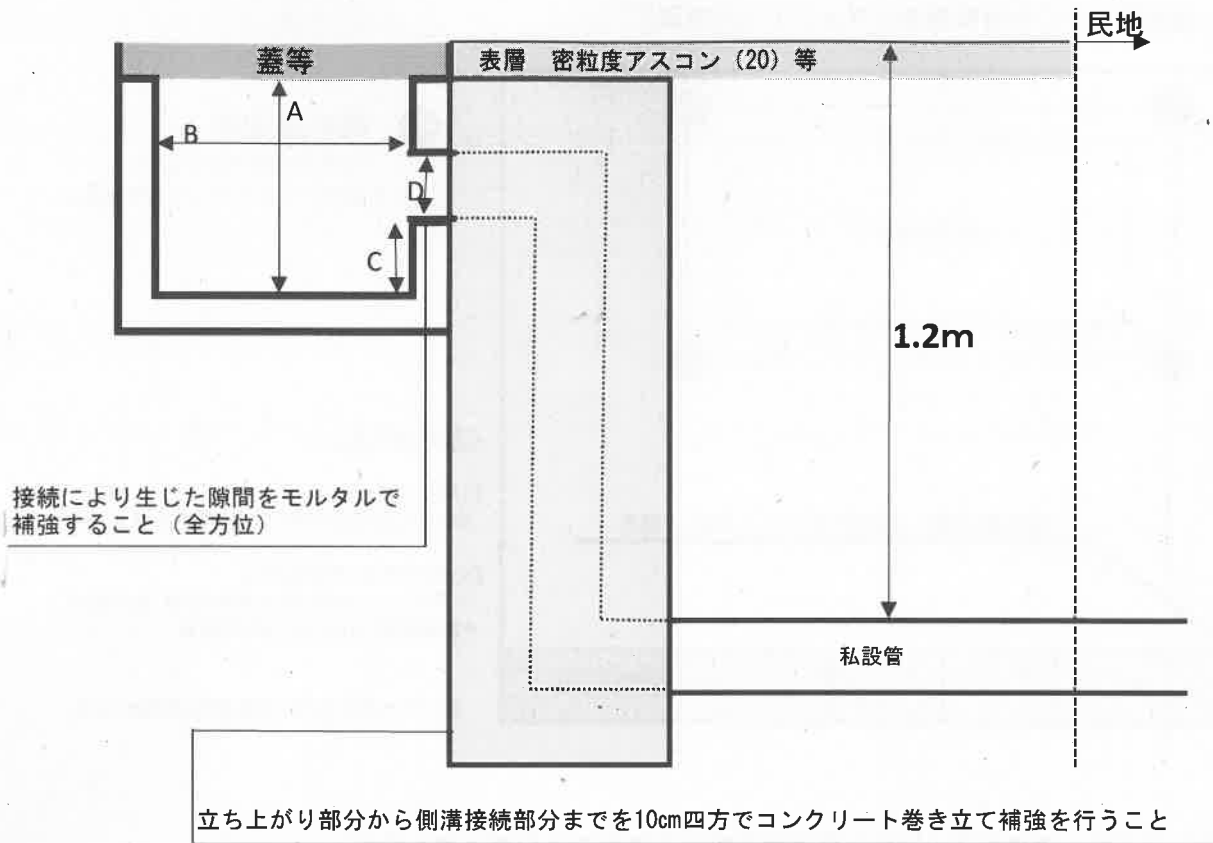
コンクリート巻き立ての最上部が、表層の最下部に入り込まないこと。



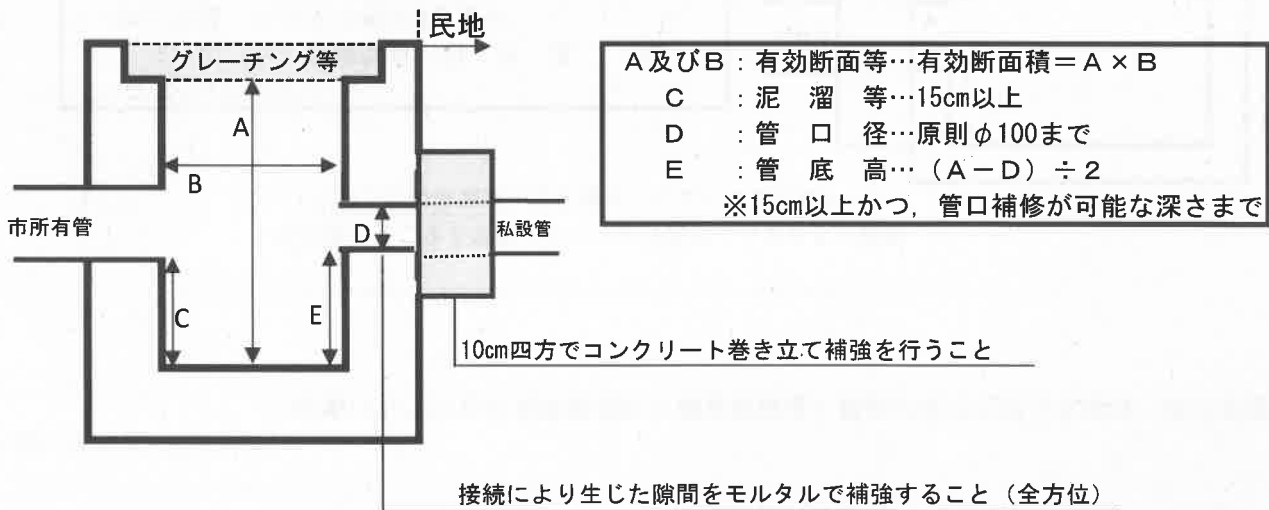
新設する管が他の既設管に影響するおそれがある場合は、所有者と協議の上、許可を得ること

<断面図③>例：私設管と道路側溝の接続（ポンプ圧送等による放流を行う場合）

※縦断埋設又は、断面図②の例において表層の厚みが確保できない場合など



<断面図④>例：私設管と集水樹の接続（境界際に構造物が無い場合は断面図②・③を参考とする。）



<注意事項1>接続等の詳細については道路管理者の指示による。

<注意事項2>接続管が道路構造物から突出しないように接続すること。

<注意事項3>雨水の放流に関しては下記のとおりとする。

《雨水の放流に関して》

道路の構造物の有効断面積が25cm×25cm以上（市所有管の場合は、φ250以上）を有する場合に限り、ひたちなか市の指定する標準浸透樹、又は、それらに準じる処理施設（ひたちなか市雨水貯留・浸透施設技術指針による。）を設置の上、オーバーフロー分のみ雨水放流を可能とする。